

平成 31 年度 社会福祉法人カルスト会 事業報告

5月に元号が「令和」に改元され、平成最後の31年度も「誠実」「敬愛」「信頼」を基本理念として、安心、安全を第一に利用者サービスの充実・向上をめざし各種事業を推進するとともに健全な法人経営に取り組んだ。

経営基盤の強化のため策定した法人の中期事業計画については、定期的に委員会を開催し達成状況を評価しながら、取り組みを行った。

行動計画について、日々の業務において職員がどのように取り組み目標達成へと近づけるか、意識づけが十分でない時期もあり、委員が工夫しながら職員と共に達成に向けて努力し、初年度としては全体的に評価するとまずまずの成果を得ることができた。

10月より介護報酬に加算された特定処遇改善加算額は、梶原みどりの家は1.9%約2,700千円、梶原ふじの家は2.7%約3,500千円となり、支給計画により経験・技能のある職員に支給額の重点化を図りながら、梶原ふじの家の支給額に合わせ、梶原みどりの家との差額分は法人が負担、3月に一時金で支給し職員の処遇改善を行った。

職員については、近年は充足することができず常に募集を行っている状況のなか、看護師を4月に採用することができた。しかし、休職中の看護師の退職に加え、年度末にも1名が依願退職することとなり求人は継続中の状況にある。

また年度末には施設長の依願退職もあった。3名の定年退職者は嘱託職員として継続勤務となり長年の経験を今後活かしてくれることを期待するところです。

11月に高知市で開催された高校新卒者面談会に参加、学生より企業の数が多く、高知県の求人難を痛感した。

定年延長についても、打合せ会、合同幹部会等で検討を重ね、諸規則の改正等について3月の理事会で承認を得て、定年を65歳とし令和2年4月から施行する。

元デイサービスセンターは、社会福祉充実残額を使用し、福祉避難所・備蓄倉庫としての機能向上及び職員研修会等に使用する目的で改修し、2月から使用を開始した。また、職員から名称を募集「ゆい」とし、職員会や利用者の喫茶等にも有効に活用している。福祉避難所用の物品の一部は、3月に梶原町職員と大越体育館からこの備蓄倉庫に移動した。

年始ころから、世界に感染が広がり始めた新型コロナウイルス感染症は、高知県でも2月末に感染者が確認され、施設では利用者家族への面会制限の周知等施設内の感染対策にも多くの時間を費やし感染予防に努めた。

感染拡大予防のため、利用者サービスにおいては来賓、家族等を招いての行事は中止または縮小して行い、職員会や送別会など多くの職員が集まる会合も中止し、面会制限は解除できないまま年度末を迎えた。

職員は感染者とならないよう日々日常生活において注意を払い、日頃を増して衛生管理を徹底する日々が続いているが、この経験は今後の感染対策に役立てていきたい。

今年度から本格的に職員出退勤管理をタイムカードから、パソコンソフトの勤怠管理に移行した。今後はこのデータを有効に活用し、業務省力化につなげていく。

1. 組 織

1) 理事名簿

令和2年3月31日現在

	役 職	氏 名	住 所	職業等	就任年月日
1	理 事 長	中 越 平	梶原町川西路 2281-2	団 体 役 員	H12. 3. 23
2	理 事	空 岡 則 明	梶原町六丁 140	会 社 役 員	H23. 4. 1
3	〃	岡 田 量	梶原町川西路 2357-7	無 職	H27. 4. 1
4	〃	岩 崎 悦 子	梶原町初瀬本村 112	職 員	H29. 4. 1
5	〃	熊 岡 健	梶原町永野 290	職 員	〃
6	〃	二 宮 佳 奈	梶原町梶原 1197-4	職 員	〃

2) 監事名簿

令和2年3月31日現在

	氏 名	住 所	職業等	就任年月日
1	山 口 敏	梶原町文丸 648	農 林 業	H24. 4. 1
2	矢 野 豪 佑	梶原町上折渡 137	団 体 役 員	H25. 4. 1

3) 評議員名簿

令和2年3月31日現在

	氏 名	住 所	職業等	就任年月日
1	矢 野 敬 明	梶原町上折渡 128	農 林 業	H29. 11. 8
2	西 村 正 義	梶原町仲洞 4884	建 築 業	H29. 4. 1
3	松 山 栄 喜	梶原町大向 305	農 林 業	〃
4	中 越 計 清	梶原町川井 7206	〃	H28. 5. 25
5	宮 本 友 和	梶原町梶原 1325-1	自 営 業	H27. 4. 1
6	神 明 靖	梶原町東川 123	会 社 員	H24. 12. 1
7	沖 田 佳 久	梶原町川口 5963	自 営 業	H29. 4. 1

4) 職員構成

令和2年3月31日現在

職名 施設名等	事務局長	所属長	事務員	支援専門員	サービス管理責任者	相談員	機能訓練指導員 ・機能訓練員	管理栄養士	栄養士	看護師	介護員	計
本部	1		2									3
居宅介護支援事業所		兼		2								2
梶原みどりの家		1			2		1		1	5 (パート1)	42 (嘱2) (臨時8) (パート5)	52 (嘱2) (臨時8) (パート6)
特定相談支援事業所		兼		1								1
梶原ふじの家		1		2		2 (嘱1)	1 (嘱1)	1		6 (臨時1) (パート1)	44 (臨時6) (パート10)	57 (嘱2) (臨時7) (パート11)
合計	1	2	2	5	2	2 (嘱1)	2 (嘱1)	1	1	11 (臨時1) (パート2)	86 (嘱2) (臨時14) (パート15)	115 (嘱4) (臨時15) (パート17)

2. 理事会・評議員会・監査

(1) 理事会5回(書面による同意2回) 評議員会1回 開催

(2) 監査

①内部監査

法人監事による決算監査及び3ヶ月に1回の内部監査を実施して、法人の健全な経営に努めた。(年間4回実施)

監査実施日:平成31年5月20日、令和元年7月22日

令和元年10月24日、令和2年1月20日

②高知県地域福祉部福祉指導課による監査

◎【法人本部】無し

◎【梶原みどりの家】集団指導 新型コロナウイルス感染症関連で中止

◎【梶原ふじの家】老人福祉法第18条第2項の規定に基づく書面監査

令和元年8月20日提出

◇ 指摘事項なし

平成 31 年度 カルスト会居宅介護支援事業所 事業報告

平成 31 年度の月平均請求件数については、昨年度の 75 件から 10 件以上少ない 64 件を若干超える実績となった。

新規利用者についても昨年度の 45 名に対し 23 名と大きく減少している。

施設に入所された方は昨年度の 25 名から 21 名でこのことは大きな変化はないが、新規利用者が大幅に減ったことにより、結果的に利用者の減少につながっていると考えられる。

介護度別の内訳としては昨年度と同じく要介護度 1・2・及び 3 の方が中心であるが軽度者の受け入れ施設ができたことで、利用者家族の施設志向が高まっており、特に要介護度 2 又は 3 といった中間層の減少が目立つ結果となった。

また、在宅での看取り及びターミナルケアのプランの作成件数は 1 件のみとなっている。

10 月には「高幡 5 市町在宅医療・介護連携合同研修会」が須崎市で開催され、当事業所も梶原病院と共同で医療・介護の連携に関する事例を発表し、町内はもとより町外にも当事業所の地域包括ケアシステムの実現に向けた活動の発信を行うことができた。

要介護度別利用状況

サービス種別ケアプラン作成状況（延べ人数）

単位：人

	要介護度					計
	1	2	3	4	5	
デイサービスゆりり	212	182	102	25	64	585
デイケア	9					9
訪問介護	87	29	40	3	19	178
訪問看護		2	3		6	11
訪問リハ		18	32	1		51
福祉用具貸与	71	116	99	28	73	387
特養ふじの家短期入所	63	90	68	25	42	288

要介護度別ケアプラン作成状況（実人数）

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
4 月	25	22	9	2	8	66
5 月	27	21	11	2	9	70
6 月	26	21	11	2	8	68
7 月	23	20	11	2	9	65
8 月	25	18	14	2	8	67
9 月	25	17	14	4	6	66
10 月	23	17	12	3	7	62

11月	24	15	13	3	6	61
12月	24	16	12	2	6	60
1月	25	16	11	3	5	60
2月	25	16	13	3	4	61
3月	27	20	12	4	3	66
平均	24.9	18.3	11.9	2.7	6.6	64.3

平成30年度 平均 75.2人

平成 31 年度 障害者支援施設 栲原みどりの家 事業報告

利用者数は、年度末現在で前年度末に比べ 3 人増となり、主要事業の生活介護事業・施設入所支援事業の稼働率は 92%（前年度対比 102.3%）を超える実績となった。入退所者については、入所者 7 人、退所者 4 人の動きがあった。短期入所事業では、高幡圏内から 6 人の利用があり、稼働率は 7.5%（前年度対比 40.4%）の実績となった。この稼働率の減少については、ロングショート利用者の減、1 回の利用日数の減によるものである。施設としては利用者の増・確保に向け、施設紹介の情報や利用状況等の情報を毎月ホームページに掲載し、問い合わせなどの対応にも役立てた。

収入については、主要事業の稼働率アップ及び令和 1 年 10 月に施行された福祉・介護職員等特定処遇改善加算により、生活介護・施設入所・短期入所の 3 事業では、ほぼ当初予算額の実績となった。

利用者支援では、障害支援区分 5・6 の重度者は 7 割を超え、介護量及び専門医療が必要な利用者は増え、利用者からの相談では物品購入・通信販売・外部情報・個人外出に関する内容が増えている。生活環境の改善では、利用者の年齢構成は 19 歳から 86 歳、男女の構成比率は男性 65%、女性 35%、障害種別では身体障害者が多数を占める中で知的・精神障害の利用者や認知症状者が増えており、利用者同士の日常会話の場面での理解・認識力の差や妄想などにより、利用者間の人間関係性や心身不安定に及ぶ場合もあり、可能な限りそれぞれに応じた居室調整と目配り体制の強化を全体的に行った。また、支援する側として情報量の増加に伴う部署間の連携・情報共有の効率化に向け、タイムリーな情報共有と情報の確認や伝達・周知機能を上げる目的で、既存のシステムとネットワークを活用し、機能追加や専用ページを設けるなど汎用につなげた。

中期事業計画に基づく「職員の資質の向上」の行動計画では、統一されたサービス提供の評価は一定高かったが、個別支援計画関係、組織の一員としての自覚、自ら考え行動する職員の評価は低く、職員の意識改革及びキャリア形成に関し弱みが出た評価結果となり、第 2 年次の行動計画「サービスの質の向上」では、この改善・充実に向け意識して取り組んで行きたい。

施設整備では、天井リフト 4 台の増設（6,152 千円）、老朽化した業務用洗濯機・乾燥機全 5 台の購入（5,022 千円）、温冷配膳車 2 台の購入（2,455 千円）、全居室・管理室の一部の照明の LED 化（1,925 千円）を実施した。また、災害時・非常時用の燃料発電機の購入、防犯対策としてさす又を施設内 6 ヶ所に配備した。

職員の確保では、臨時職員（常勤）の雇用 1 名（6 月）・退職 1 名（11 月）があり、今年度定年退職となる職員 2 名については、継続雇用により次年度からも即戦力として勤務することになった。職員の確保が困難な状況は続いており、利用稼働率の維持又はアップを目指す上では職員の確保は必須であり、更なる情報発信等に取り組んで行くと共に人材育成についても力を入れて行かなければならない。

苦情相談（第三者委員）体制では、今年度末で任期満了となる中岡幸恵氏について、引き続き次年度から 2 年間の任期（第 5 期目）で就任していただくことになった。

1. 施設利用状況（平成 31 年度）

1) 利用者状況

在籍者数	性別	前年度末	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数 (月末)	男	46	46	46	46	46	47	47	47	47	48	49	50	50
	女	28	28	28	28	29	28	27	27	27	27	27	27	27
合計		74	74	74	74	75	75	74	74	74	75	76	77	77
内訳	入所	男	5	1				1				1	1	1
		女	2				1					1		
	計		7											
	退所	男	▲1	▲1										
		女	▲3					▲1	▲1			▲1		
	計		▲4											
増/減 (▲)		3	0	0	0	1	0	▲1	0	0	1	1	1	0

2) 入退所者の内訳

	入所前 退所後	人数	内 訳
入所者	病 院	3 人	近森病院、一陽病院 高知リハビリテーション病院
	施 設	4 人	こども療育センター 高知リハビリテーションセンター
	計	7 人	
退所者	病 院	2 人	梶原病院入院（施設利用が困難） 高知リハビリテーション病院入院
	死 亡	2 人	看取りケア、致死性不整脈
	計	4 人	

3) 市町村別利用者数

令和 2 年 3 月 31 日現在

県 内	市町村	人数		県 外	市町村	人数	
		男	女			男	女
高知県	高知市	11	1	愛媛県	宇和島市	3	2
	香美市	1	0		西予市	1	0
	香南市	1	1		今治市	0	1
	安芸市	1	0		愛南町	3	1
	土佐市	1	0		鬼北町	1	0
	四万十市	1	0	愛知県	小牧市	0	1
	宿毛市	2	1	鳥取県	鳥取市	1	0
	奈半利町	1	0	県外計		9	5

	いの町	2	2	合 計			50	27																
	佐川町	1	0	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">平均年齢</td> <td>最高齢</td> <td>最年少</td> </tr> <tr> <td>男性</td> <td>58 歳</td> <td>80</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>63 歳</td> <td>86</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>60 歳</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					平均年齢		最高齢	最年少	男性	58 歳	80	19	女性	63 歳	86	38	全体	60 歳		
平均年齢		最高齢	最年少																					
男性	58 歳	80	19																					
女性	63 歳	86	38																					
全体	60 歳																							
(高幡圏)	須崎市	4	6																					
	四万十町	4	1																					
	中土佐町	0	3																					
	津野町	4	2																					
	梶原町	7	5																					
県内計		41	22																					

4) 生活介護・施設入所支援

単位：利用延人数

事業	開所日数	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
生活介護	262			2,059	2,969	3,700	10,584	19,312
施設入所	366			2,876	4,145	5,159	14,785	26,965

◇稼働率

H31 年度	生活介護 (定員 80 人)		施設入所支援 (定員 80 人)	
	92.1%	73.8 人/1 日	92.1%	73.7 人/1 日
前年度	生活介護 (定員 85 人)		施設入所支援 (定員 80 人)	
	84.7%	72.0 人/1 日	89.9%	71.9 人/1 日

5) 短期入所

(須崎市・津野町)

区分	開所日数	児 3	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
日数	366	10	12	139	43	14	0	218

◇稼働率

年度	短期入所 (定員 8 人)	
H31 年度	7.4%	0.6 人/1 日
前年度	18.7%	1.5 人/1 日

6) 日中一時支援事業

(梶原町)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

7) 入所者状況 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

◇年齢別構成

19 歳以下	20~24 歳	25~29 歳	30~34 歳	35~39 歳	40~44 歳
1 人	1 人	0 人	0 人	4 人	2 人
45~49 歳	50~54 歳	55~59 歳	60~64 歳	65~69 歳	70 歳以上

5人	9人	13人	15人	8人	19人
----	----	-----	-----	----	-----

◇障害支援区分別利用者数

障害支援区分	軽度		最重度				計
	1	2	3	4	5	6	
男			7	8	9	26	50
女			1	5	5	16	27
計			8	13	14	42	
比率 (%)			10.4%	16.9%	18.2%	54.5%	100.0%
						平均障害支援区分	5.2

平成 31 年度 カルスト会特定相談支援事業所 事業報告

今年度の計画相談支援サービス契約件数は、新たに 5 件の契約締結(施設入所者 4 名、就労継続支援 1 名)、3 件の解約(施設退所者 3 名)があり、年度末の契約件数は 82 件、内 14 件は就労継続支援・グループホームを利用している障害者となっている。

サービス利用計画作成は 34 件、モニタリングは当初計画より 20 件増え 106 件の実績となった。モニタリング件数が増えた内訳は、施設入所に伴う市町村から当事業所への移管、就労・訓練系サービス利用から施設入所利用になった障害者の 3 ヶ月間のモニタリングが加わったことによるものです。

訪問・相談では、契約者の増加ほか、サービス利用に関し本人・ご家族の意向や事業者の受け入れ状況等の確認や調査、サービス利用者の利用状況の把握、認定更新となる障害者の訪問調査等により訪問件数が増加した。在宅就労(テレワーク)につながったサービス利用計画の作成では、契約会社が町外であることから、仕事の内容・時間等に関し、本人・ご家族・会社間の情報等のやり取り・整理の面で苦勞した点もあった。

今後の課題としては、現に利用中のサービス利用継続に向けた調整・相談や地域に限らず施設入所者についてもニーズが多様化する中で、相談窓口としての事業所機能の展開とサービス利用者の安定した日常生活につながるよう、事業者及び関係機関との調整・情報収集や連携を密にして行くことが必要である。

1. 利用契約・サービス利用計画・モニタリングの実績

◇相談支援契約(前年度末: 80 件)

	契 約		サービス利用計画			モニタリング			訪問件数
	新規	解約	※1 入所者	※2 地域	計	※1 入所者	※2 地域	計	
H31 4 月	0	0	1	3	4	16	2	18	21
R1 5 月	0	0	0	3	3	6	3	9	11
6 月	1	0	4	0	4	11	2	13	13
7 月	0	0	0	0	0	5	1	6	9
8 月	0	▲1	2	1	3	1	1	2	2
9 月	0	▲1	0	0	0	8	4	12	15
10 月	1	0	3	0	3	5	7	12	17
11 月	1	0	4	1	5	6	1	7	8
12 月	1	▲1	1	0	1	1	1	2	3
R2 1 月	1	0	8	0	8	6	1	7	17
2 月	0	0	1	0	1	4	0	4	6
3 月	0	0	2	0	2	12	3	15	21
合計	5	▲3	26	8	34	81	25	106	143

契約 件数	82	施設入所：68 件 地 域：14 件(就労継続 B 型、グループホーム、在宅就労)
----------	----	--

2. 業務活動等

日 付	内 容	開催地
平成 31 年 4 月 19 日	第 6 回高幡相談支援連絡会	須崎市
令和元年 6 月 28 日	第 7 回高幡相談支援連絡会	須崎市
令和元年 9 月 24 日	高知県障害者雇用促進セミナー（在宅就労「テレワーク」について学ぶ）	高知市

平成 31 年度 特別養護老人ホーム栲原ふじの家 事業報告

施設運営では、消費税増税による報酬改定があり若干の基本単価の増額はあったが、長期入院者が多く空日数の増加などが原因で、収入は当初の見込みを下回る結果となった。

10月に創設された介護職員等特定処遇改善加算は、介護職員と、対象となるその他の職員に対して、3月に一時金で支給をして処遇の改善を図った。

施設設備においては、浴室の改修工事で約1ヶ月間にわたり利用者に不便をかけたが、1階にミストシャワー浴槽と昇降式の個浴槽の設置、2階は老朽化したひのき風呂を撤去、昇降式の個浴槽を設置し、利用者、職員双方に安全・安心であり、快適な入浴を提供することができた。

取り組みから3年目となるノーリフティングケアにおいては、積極的に研修会に参加し、若手職員の育成を図った。

設備等も充実し、2ヶ月に1回ノーリフト普及員の理学療法士から指導を受けることで、施設全体で統一した取り組みが定着してきている。

また、10月からはノーリフト委員会を立ち上げ、現状の把握と今後の課題等活発な意見交換の場となり、課題解決も含め他施設への視察研修も行った。今後も利用者・職員の安全を一番に、質の高い統一したケアに取り組んでいく。

年に一度の大きなイベントである敬老会は、昨年度は利用者の数名が肺炎球菌感染の疑いから開催を見送ったが、今年は無事に開催することが出来た。

地域の方や家族と共に盛大にお祝いし、外部から参加いただいたアトラクションも好評で、職員が団結して取り組み達成感を得る行事となった。

敬老会当日の家族会での施設の取り組み発表では、家族から感謝の言葉を頂いた。

職員の状況では、休職中だった看護師が退職したが、4月に看護師を採用することができ、専門学校新卒者を4月に雇用、また7月と10月にはIターンの職員を雇用することができ、Iターン職員は職場に新しい風を吹かせてくれた。

中長期事業計画1年次は「職員の質の向上」を目標に行動計画を作成し、個々が目標を立てて取り組んだが、一部の職員の言動が施設全体の評価を下げる結果となっている。施設全体で職員同士が声を掛け合い、互いが信頼しあえる働きやすい職場となるよう今後も取り組んでいかなければならない。

年間を通し巷で流行する感染症を施設に持ち込まないよう努力をして、今年度も家族、地域の皆様のご協力と、感染委員を中心に職員の取り組みのかいもあり、インフルエンザ等感染症の発症はなかった。

年が明け新型コロナウイルス感染症が各地で流行し、高知県でも2月末に初の感染者を確認、そのため施設においても3月1日から家族に面会制限の協力を要請し、感染予防に努めた。今後も状況を見ながら対策方法を検討しながら取り組んでいく。

今年度は地域のいきいきふれあい事業（東区3回、四万川地区1回）に施設から生活相談員2名が参加し、地域の方と共にレクリエーション活動を行った。参加者には好評だったとのことで、来年度も継続し地域との交流を深めていきたい。

1. 利用者生活状況

1) 市町村別入退所状況・年度末入所者数（人）

市町村		梶原町	高知市	須崎市	津野町	中土佐町	計
		入 所	男	4	0	0	0
女	10		0	0	0	0	10
計	14		0	0	0	0	14
退 所	男	4	0	1	1	0	6
	女	5	1	0	1	0	7
	計	9	1	1	2	0	13
3 月 末 人 員	男	16	0	2	0	0	18
	女	57	1	0	4	0	62
	計	73	1	2	4	0	80

2) 介護度別一覧（人）

要介護度 3	27
要介護度 4	30
要介護度 5	23

平成 31 年度 平均介護度 3.95
 (平成 30 年度 平均介護度 3.97)

平成 31 年度 年間在所延日数 27,620 日
 (平成 30 年度 年間在所延日数 27,654 日)

3) 入院・外泊等状況（請求ベース）

延日数	1,504 日
月平均	125 日
一日当り	4.2 人

4) 入退所状況（人）

入 所	自宅より	6	
	病院より	6	ちひろ(2)・せいわ(1)・一陽(1)・近森リハビリ(1) 白菊園(1)
	他施設より	2	ケアハウスゆるり・老健あけぼの
	計	14	
退 所	死 亡	8	施設看取り 1 名・梶原病院 7 名
	その他	5	入院継続 4・介護度変更 1
	計	13	

5) 男女別年齢構成

以上 未満	55 ～ 60 歳	60 ～ 70 歳	70 ～ 75 歳	75 ～ 80 歳	80 ～ 85 歳	85 ～ 90 歳	90 ～ 100 歳	100 歳 以上	合計 (人)	構成 比 (%)	最高 (歳)	最少 (歳)	平均 (歳)
男	0	2	2	2	3	5	3	1	18	22.5	104	65	84.1
女	1	0	2	1	3	17	33	5	62	77.5	102	56	90.7
計	1	2	4	3	6	22	36	6	80	100			89.2

6) 短期入所利用状況 (1日平均 7.1人)

※延日数保険外利用含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
実人員	21	25	25	29	33	26	25	22	23	21	20	24	294
(内予防)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(1)
(保険外)	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(2)	(1)	(5)
延日数	200	279	207	240	309	222	203	155	200	181	238	160	2,594

平成 30 年度 平均 8.2 人 年間 3,013 人